

1 学校教育目標

～自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断できる、心豊かな生徒の育成～

2 今年度の学校重点目標

- 生徒の自尊感情を高める指導の充実。
- 特別な支援を要する生徒の理解深化と支援の充実。
- 新学習指導要領の円滑な実施。
- GIGAスクール構想の実現。
- 小中一貫教育のさらなる深化。

4 総合的な学校関係者評価

- 評価項目を明確にされたことで非常にわかりやすい評価となっている。さらに、評価の中に具体的な数値が明記されていると、達成率に説得力が増すと思う。
- GIGAスクール構想もよいですが、改めて対面授業の重要性が再認識できたのではないだろうか。
- 不登校対応に苦勞されているようですが、先生方は個に応じた対応をしてくださっており頭が下がります。
- 関係機関との連携により、支援や配慮を要する生徒への対応が適切に行われている。
- これからの学校運営を考えると若手教員、ミドルリーダーの育成が最重要課題ではないだろうか。
- コロナ禍の影響もあろうが、小中一貫教育の停滞を感じます。

3 学校自己評価結果（A大変良い・B良い・Cあまり良くない・D要改善）

分野	評価項目	達成状況	成果・改善策
特色ある学校運営	①「学び合い」による授業改革 ②掃除の時間を道徳教育として位置づけ、自分と向き合い自らの「心」を磨く。 ③モジュール学習で意欲、集中力、記憶力を高める。 ④GIGAスクール構想の実現	B	新型コロナ感染拡大により、活動を制限せざるを得ない場面があったが、適切な対策を講じながら取り組むことで成果が出たためB評価。 ①限られた時間ではあるが4人班での学び合いを再開し、相互授業参観で研鑽を積んだ。 ②感染対策を徹底したうえで膝つき雑巾がけを再開し、生徒にとって自分と向き合う充実した時間となっている。 ③朝モジュールを効果的と感じている生徒の割合が約10ポイント低下しているため、内容の見直しを含め再検討の必要がある。 ④授業における活用方法について、各教科で工夫を重ね、実践提案シートにまとめた。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書部と連携して積極的に図書館開放をPRし、自分に合った本を見つけることで読書好きを増やしていく。 ・ 教科モジュールにおけるマンネリ化を防ぐために、教科間での情報共有を図り、内容を工夫改善する。 ・ 教師の「自問」に対する共通理解と意識の向上。 ・ CB持ち帰りのリスクも含め、慎重に今後の方向性を検討する。
確かな学力の育成（おの検定）	①基礎、基本学習の定着 おの検定合格率70% ②自学自習の週間の定着	C	支援を要する生徒の底上げが不十分であるためC評価。 ①教科モジュールで、おの検定の練習問題を活用しながら基礎学力の定着を図っているが、漢字 48.9%、計算 60.0%、英語 33.3%と目標の70%には及ばなかった。 ②学習部の取り組みである、学習計画を考える時間の設定により、テストに対する意識の向上、計画的な学習の実践につなげることができ、学習時間の増加や課題提出率がほぼ100%に達した。 【課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特に支援を要する生徒の勉強に対するモチベーションアップが課題となっている。

<p>小中一貫教育</p>	<p>①自主的な家庭学習、授業での学び合いの推進</p> <p>②生活指導面での綿密な情報共有と同一歩調での取り組み</p> <p>③交流行事の取り組み</p> <p>④各教科での交流</p>	<p>B</p>	<p>新型コロナの影響以外の部分では、一定の成果を得ることができたためB評価。</p> <p>①小学生も計画的に学習できるようになってきており、一日の学習時間が習慣化してきている。話し方や司会の進め方等を小中で統一したことでスムーズに話し合いが進められるようになった。</p> <p>②月1回の生活指導（いじめ）対策委員会を合同で実施し、共有した情報を指導に役立てることができた。</p> <p>③小中合同のアルミ缶収集を行い、収益で購入した車いすを社会福祉協議会に寄付することで社会貢献活動ができた。</p> <p>④新型コロナの影響で授業交流や出前授業が中止となり、思うような交流ができなかった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人によって、家庭学習の取り組み内容や時間に差があり、支援が必要な生徒には、継続的な個別指導が必要である。 SNSの使用状況を集約し、重点4項目については認知度が大幅に上がった。しかし、内容については守られている割合が、学年が上がるにつれて減っており、連携した取り組みの必要性を感じる。
<p>人権教育・道徳教育</p>	<p>①対話を通して道徳性を高める教育の実践</p> <p>②人権教育の推進</p>	<p>B</p>	<p>授業や行事を通して生徒の人権感覚の高まりを感じることができたためB評価。</p> <p>①道徳授業研究会の講師を変更したことにより、新たな切り口で指導助言をいただき、それが授業力向上につながった。</p> <p>②人権旬間や人権弁論大会の開催が、感謝を伝えたり、人の気持ちを考えたり、人権について考える良い機会となった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業を通して道徳的価値が深まるよう取り組んでいるが、普段の学校生活の中では、まだまだ人権意識に欠ける言動があることが残念である。 道徳が教科化されたことによる評価の方法について、さらに研鑽を積む必要がある。
<p>生徒指導</p>	<p>①開発的・予防的生徒指導の実践</p> <p>②不登校生との関係を「切らない、維持する、育む」の実践</p>	<p>C</p>	<p>生徒指導、不登校共に課題が多いためC評価。</p> <p>①学校改革3年目を教職員が意識し、子どもたち一人ひとりの個性を理解し、愛情と熱意を持って子どもたちに寄り添い、教員のセルフチェックシートを活用しながら不適切な指導の根絶に取り組んだ。</p> <p>②SCと連携しながら、個に応じた対応（朝の登校、にこにこ教室、放課後登校等）に取り組み、教室復帰できた生徒も見られた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な個性を持つ生徒が多数在籍しており、個に応じたよりきめ細かな指導の必要性が感じられる。 長年本校の不登校担当を務めてきた職員の退職を目前に控え、後任の育成に早急に取り組む必要がある。
<p>学習指導</p>	<p>①4人グループでの主体的学び合いの推進</p> <p>相互授業参観カードの活用</p> <p>②計画的な学習習慣の確立</p>	<p>B</p>	<p>取り組みの成果が形となって表れつつあるためB評価。</p> <p>①コロナ禍ではあるが、工夫して学び合いの場面を仕組むことで、生徒の中に全員で学びを深めようという姿勢が見え始めた。</p> <p>②学年全体で学習計画を考える時間を設定することで、テストに対する意識の向上、計画的な学習の実践につなげることができ、学習時間が増え、課題の提出率がほぼ100%に向上した。</p>

	<p>③ASK学習の深化</p> <p>④新学習指導要領完全実施に伴う正しい評価のあり方についての研究</p>		<p>③生徒会学習部による啓発活動により、「押し出し発言」「接続語発言」「ロング発言」「理由づけ発言」に対する意識が向上し、学年が上がるほど、授業の中で実践する生徒が増えた。</p> <p>④新たな3観点を正しく評価するための評価規準や評価材料の整理を行い、学期ごとに評価内容について検証を重ねた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の影響で、対面でのスピーチ等の機会が削減されているため、さらにクロームブックの活用を加速させる必要がある。 ・ 主体性や思考力といった数値化しにくいことを評価する際には、とくに「妥当性と信頼性」が必要とされるため、時間軸で子どもを観察し、子どもたちを多面的に見ていく必要がある。
特別活動	<p>①集い・憩い・潤い・安らぐ時と場が保障される学級づくり</p> <p>②生徒会活動や行事を通して、社会性を身につける</p>	B	<p>全体として良好な結果を維持できているためB評価。</p> <p>①年2回実施している学級集団形成テストでは、学習規律の向上が見られ多くの項目で100%やそれに近い数値がみられる。行事を通して「いばらない」や「教える」の数値が向上している。分析結果を基にPDCAサイクルを回し、安らぎのある学級づくりに努めた。</p> <p>②特別活動についてのアンケートでは、概ね良好な結果を維持し、当番活動や自己の役割を果たす意識が高まっている。また、互いの意見を尊重し合いながら学校生活を送ることができている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極性の項目がやや低いため、行事や専門部活動を通して、成功体験を積み、自信を持たせたい。 ・ 「厳しさ」や「譲り合い」の項目で数値が低く、集団としての高め合いが少なく感じられた。
特別支援教育	<p>①特別な支援を要する生徒の理解深化と支援の充実</p> <p>②小・中・高の連携</p> <p>③保護者、関係機関との連携</p>	B	<p>学校改革とも連動した取り組みにより、教師の意識改革が進みつつあるためB評価。</p> <p>①定期テストで、ルビうち、解答用紙拡大、マス目付き解答用紙などの合理的配慮を積極的に推進し、生徒の定期テストからつまずき・理解度を分析、次の支援へつなげた。</p> <p>②小学校と現7～9年生に関する情報交換を行い、9年生で高校への引き継ぎが必要な生徒のピックアップをし、引き継ぎ資料を作成した。</p> <p>③小学校保護者向け特別支援学級・通級懇談会を開催（10月上旬1回両小学校対象に実施）し、好評を得た。さらに、保護者に個別進学相談会への参加を勧め、保護者と発達支援室とつながりを構築した。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すべての生徒にとってわかりやすい授業にするために、適切な文字の大きさ、効果的な視覚支援、的確な指示の出し方等更なる授業のユニバーサルデザイン化が必要。 ・ どのような支援がその生徒にとって最も効果的であるかを、本人との会話を大切にしながら追求し、個別の支援計画を作成する。
安全指導	<p>①安全教育の推進</p> <p>②防災教育の充実</p>	B	<p>日々の地道な取り組みにより、命の大切さが子どもたちの中に浸透しているためB評価。</p> <p>①交通安全教室や教職員による毎日の登下校指導を計画的に実施し、生徒の安全意識向上に努め、大きな事故等はなかった。</p> <p>②時間予告無し地震訓練と火災を想定した避難訓練を2回実施し、生徒の防災意識向上や災害時の正しい行動について確認することができた。</p>

	③保健指導の充実		<p>③新型コロナウイルス感染予防に全力を注いだ1年であったが、生徒会保健部による「手指消毒、三密回避の徹底」の呼びかけや教員の消毒作業により第6波でも大きな感染拡大にならなかった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部の規範意識の低い生徒に対する粘り強い指導が必要。 震災を後世に語り継ぎ、防災意識を高める取り組みが必要。
進路指導	<p>①学年に応じた進路指導</p> <p>②キャリア教育の充実</p>	A	<p>おむね計画通りに充実した活動を行うことができたためA評価。</p> <p>①7年生のキャリア学習で夢を想像し、今の自分を見つめ直し、トライやるや自分の将来について少しずつ考えられるようになっていく。</p> <p>①9年生は進路指導を通して自分の今の状況を理解し、進路実現に向け行動にうつすことができるようになった。</p> <p>②キャリア教育に関する校内授業研究会を実施し、教師の授業力向上に努めた。</p> <p>②8年生はトライやるやキャリア講演会を通して、地域の経営者の生の声を聞かせていただき、自分の将来について考えるきっかけとなった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリアノートをさらに有効活用し、9年間を見通したキャリア教育、進路指導を充実させる必要がある。
家庭・地域との連携	<p>①学校からの積極的な情報発信</p> <p>②学校公開の実施</p> <p>③地域行事への積極的参加</p>	B	<p>コロナ禍の影響部分を除けば、積極的な取り組みが大きな成果を得たためB評価。</p> <p>①ホームページをこまめに更新し、学校行事や学校生活の様子を写真と共に掲載し、少しでも学校の様子がわかるように努めた。さらにメール配信システムを活用し、リアルタイムでの情報発信に努めた。</p> <p>②コロナ禍の影響で、保護者の参加は制限したが、動画配信や写真で少しでも行事の雰囲気や伝わるよう工夫した。</p> <p>③吹奏楽部は積極的に地域行事に参加し、日頃の成果を発表した。さらに、小中が連携してアルミ缶収集を行い、収益で購入した車いすを小野市社会福祉協議会に寄付することができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中での学校公開のあり方（クロームブックの活用等）を構築していく必要がある。 保護者だけでなく、地域への積極的な情報発信が課題である。